

## 保健体育 (Physical Education IV)

担当教員名	松下 幸一、後藤 太之、前田 忠紀	
学科・専攻、科目詳細	都市システム工学科 4年 通年 2単位 実技	
学科のカリキュラム表	一般科目 必修科目	
共生システム工学の科目構成表	教養科目 保健体育系	
学習・教育目標	共生システム工学	A-3(90%) B-3(10%)
	JABEE基準1(1)	(a)
科目の概要	<p>スポーツを日常的に取り入れる習慣を付けてもらうべく、その楽しさや奥深さを知ってもらいたい。この授業は、自発的、積極的に参加する姿勢を求めている。グループを作り、リーダーが中心となって授業内容の立案、検討、実施をすべて行ってもらう。実施可能な種目は、サッカー、フットサル、野球、ソフトボール、バーバーラ、バスケットボール、バドミントン、卓球である。</p>	
テキスト(参考文献)	新版保健体育概論(近畿地区高専体育研究会編:晃洋書房)	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>トレーニングウエア、運動靴を着用すること。</li> <li>アクセサリー類、時計、その他不必要な物の着用を禁止する。</li> <li>遅刻は開始20分まで。20分以後の参加は認めるが欠席扱いとする。</li> </ul>	
科目の達成目標	<p>(1)積極的に授業に参加し、社会性・協調性を向上させ、安全に楽しんでスポーツをすることを目指す。 学習教育目標/A-3, B-3</p> <p>(2)自己の体調や身体能力を把握し、健康保持、さらには体力の向上を目指す。 学習教育目標/A-3</p> <p>(3)ルールや基本技術・応用技術を習得し、ゲームに参加することを目指す。 学習教育目標/A-3</p>	
自己学習	各種目における技術、戦略、戦術、ルール等の学習を積み重ねる。また、日頃から体力の維持向上に努めて、体調管理にも気を配る。	
目標達成度(成績)の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件(割合)	1/4以上の欠課
	<p>授業参加状況、授業への貢献(80%) 実技(20%)を総合的に評価し、評価点が60点以上の者を合格とする。</p> <p>(1)学生の自主性を尊重した授業作りをしているため、規律を守り積極的に参加する姿勢を求めている。また、服装や用具等の準備、十分なウォーミングアップとクールダウン、安全への配慮など、スポーツを行う際の必要な事柄を軽視せず、しっかり行う習慣がついていることを評価する。</p> <p>(2)各種目のルールを理解している。ある程度の技術を身に付け、楽しむことができる。</p> <p>(3)プレイ・マナーを身に付け、他者への配慮もできる。</p>	
連絡先	koichi@akashi.ac.jp(松下幸一) / tgotoh@akashi.ac.jp(後藤太之)	

授業の計画・内容	
第1週	ガイダンス 各種目の希望調査等
第2週	各種目にて練習とゲーム バレーボール、卓球、軟式野球・ソフトボール
第3週	" "
第4週	" "
第5週	" "
第6週	" "
第7週	" "
第8週	" "
第9週	" "
第10週	" "
第11週	" "
第12週	" "
第13週	" "
第14週	" "
第15週	" "
期末試験実施せず	

授業の計画・内容	
第16週 ガイダンス	各種目の希望調査等
第17週 各種目にて練習とゲーム	バスケットボール、バドミントン、サッカー、フットサル
第18週	〃 〃
第19週	〃 〃
第20週	〃 〃
第21週	〃 〃
第22週	〃 〃
第23週	〃 〃
第24週	〃 〃
第25週	〃 〃
第26週	〃 〃
第27週	〃 〃
第28週	〃 〃
第29週	〃 〃
第30週	〃 〃
<b>期末試験実施せず</b>	